

【榎本館長からのメッセージ】

あつと言う間に6月です！もう梅雨になります・・・のはずですが、真夏は続く、雨は降らない、すでに真夏ではと勘違いするほどの気候ですね。こんな天候の年は、猛暑日が続いたり、突然の雹や豪雨に多く見舞われたりと天候が不安定になりがちですから皆さん体調管理に加えて防災対策も万全をお願いします。

この時期の植物館ではサガリバナやシクンシが咲き、辺り一面に香りをただよわせます。公園ではマルバデイゴの真っ赤な花が、枝先で咲き、足元に散り、熱帯の雰囲気演出します。今月一押しは、なんといっても「ジャカラнда」。この花の美しさと儚さから、恋愛と重ね合わせた歌もあります。この時期にしか見る事の出来ない花ですので是非植物館へ足をお運びください。 館長



季節イベントの紹介（イベント・展示担当：関）

初夏の彩りを植物たちが感じさせてくれる季節です。6月の企画展は「夢の島ハーブ展」自然の力で私たちの生活を豊かにしてくれるハーブ。気軽に暮らしに活かす魅力をご紹介します。関連イベントや植物館前庭のハーブ園もあわせてお楽しみください。

また、人気の「熱帯大温室で空中散歩体験」は今年も開催いたします。大温室の上空からの熱帯植物の絶景は普段見る事の出来ない体験です。

【6月のイベント】 企画展「夢の島ハーブ展」(5/30～6/25)

企画展関連イベント「ハイビスカスティーのふるまい」(6/10 11)

「ハイビスカスの相談会&即売会」(6/10 11)「キッチンハーブの寄せ植えづくり」(6/11)

「赤しそジュース作り」(6/28)

《季節イベント》 「ウィークエンドコンサート」(6/3 17)「ハーブの学校」(6/4)「森の学校」(6/10)「空中散歩体験」(6/10 11)

「父の日にオリジナルうちわ&風鈴づくり」(6/18)「ミツバチの家に色を塗ろう！」(6/25)

★詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館にお問い合わせください。

館内で見られる植物の紹介（植物館植栽担当：横平）

ハーブ展が開催される頃、当館のハーブ園でも色々なハーブの花が見頃となっています。

そのうちのラベンダーは多年生植物で、自生地は主に地中海沿岸の乾燥した岩だらけの丘陵地帯です。ラベンダー(lavender)という英名は、ラテン語の「洗う(lavare)」に由来しています。ギリシャ・ローマ時代に洗濯水に芳香をつけて用いたことからのようです。また入浴剤としても好まれ、香水にも利用されています。殺菌作用や防虫作用があり、頭痛薬としても有名です。

高い人気と古くから栽培されてきた長い歴史のためか、よく見かけるラベンダーはたいてい交配種や栽培変種で、厳密な同定はきわめて難しいようです。ラベンダー属の分類方法もいくつかありますが、当館にはストエカス系とデンタータ系、イングリッシュ系とラバンディン系があります。

ストエカス系(フレンチラベンダー)は、花穂のてっぺんに色のついた苞が数枚あり、葉に切れ込みはありません。デンタータ系(フリンジド・ラベンダー)は、ストエカス系と似た形の花穂をつけますが、葉に細かい切れ込みが入り美しい形をしています。イングリッシュ系(イングリッシュラベンダー)は、ラベンダーの基本種で、ずっと伸びた花穂に小さな花を多数つけます。ラバンディン系(イングリッシュ系と原種のスパイクラベンダーの交配種)は、耐暑性に優れていることが特徴です。



▲ デンタータ系 (シソ科)



▶ イングリッシュ系

今月の花と実



▲ サンゴシトウ



▲ ジャカラнда



▲ ジャカラндаの落花

♪ この時期の人気者 ♪

植物館の開花お問合せNo.1の植物「ジャカラнда」。世界三大花木の一つで、高い枝先に咲く涼しげなその紫色の花は、遠目にも見応え充分。和名は「紫雲木」。足元の落花も色鮮やかで意外に写真スポット。

ツボミが膨らみ、開花間近の「サンゴシトウ」や「マルバデイゴ」。夏間近を感じさせます。

【ザ・ハイビスカス】団体不可  
コーヒータン  
一杯無料  
6/1～6/30

予告：次回は6/25の発行予定です。